バラの肌着（1957）

DESIGNING WOMAN

メディア 映画
ジャンル コメディ　ロマンス
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 118分
初公開日 1958/05/27
公開情報 ＭＧＭ

【解説】

ペック主演作には珍しい軽喜劇で、アカデミー脚本賞を取ったＧ・ウェルズの作劇が大変巧みで大いに楽しめる。バコールがファッション・デザイナーの役だから、カラフルな衣装も目を喜ばす。冒頭、主要登場人物が、以下描かれる物語についての感想を一くさり述べるのだが（この手のスタイルは傑作か駄作かまず極端に割れる）、これがスマートで、すんなりお話に乗れる（だが、このナレーション・リレーの形式が中途半端にリタイアしてしまうのが本作の弱点でもある）。

ＮＹ新報のスポーツ記者マイク（ペック）は、カリフォルニアでのゴルフ大会取材の富くじで賞金千ドルを手にし上機嫌。記憶がなくなるほど飲んで、社に記事をちゃんと送ったか不安になる。恐る恐る電話すると、問題ないとの返事。夕べ知り会ったデザイナーのマイラ（バコール）が見出しまで考えて伝えてくれたのだ。彼はホテルのプールサイドで彼女に会って思い出す。いっぺんに二日酔いが醒め、心は青空。しかも、マイラは大変な美人だ。二人、賞金の残りで大いに遊んで惚れあって、アリゾナで式を挙げてのＮＹ帰還。ところが、マイラは彼が思った以上の“大物”で、しがない記者稼業の自分で釣り合うのかと半信半疑のマイク。彼女は、舞台衣装を依頼するブロードウェイの製作者ザッカリーと昔つきあっていたらしい。一方のマイクは踊り子のローラとちょっといい仲であり、自室の彼女の半裸の写真を破り捨てるも、その断片をしっかとマイラに見られて、舞台のヒロインに抜擢されたローラにすぐピンときて……。このジェラシーのすれ違いが笑いを生むのだが、ボクシングの大物フィクサー攻撃の連載で命を狙われるマイクが理由を明かさず雲隠れしたことから、とんでもない騒ぎとなっていく。ここで活躍するのが用心棒になるパンチ・ドランカーの元ボクサー、マキシー（ショーネシー）で、彼の天然？ボケ具合が実に愉快。“バラの肌着”らしきものは映画に全く登場しませんので、念のため。

【クレジット】

監督	ヴィンセント・ミネリ	Vincente Minnelli	
製作	ドア・シャリー	Dore Schary	
脚本	ジョージ・ウェルズ	George Wells	
撮影	ジョン・アルトン	John Alton	
編集	エイドリアン・ファザン	Adrienne Fazan	
音楽	アンドレ・プレヴィン	Andre Previn	
出演	グレゴリー・ペック	Gregory Peck	マイク・ヘーゲン
	ローレン・バコール	Lauren Bacall	マリラ・ブラウン・ヘーゲン
	ドロレス・グレイ	Dolores Gray	ロリ・シャノン
	サム・レヴェン	Sam Levene	ネッド・ハマースタイン
	ミッキー・ショーネシー	Mickey Shaughnessy	マキシー・スタルツ
	チャック・コナーズ	Chuck Connors	ジョニー・Ｏ
	トム・ヘルモア	Tom Helmore	ザカリー・ワイルド
	ジェシー・ホワイト	Jesse White	チャーリー

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

エドワード・プラット　Edward Platt
アルヴィ・ムーア　Alvy Moore

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.